

日作協発第 229 号
令和 3 年 3 月 3 日

厚生労働省 医政局 医事課
試験免許室 御中

一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 中 村 春 基

第56回作業療法士国家試験問題について（意見）

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より当協会の活動にご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、2月21日に実施されました第56回作業療法士国家試験問題につきまして全国の作業療法士学校養成施設に問題の妥当性についてアンケート調査を実施しましたところ、211校(223課程)中88校(89課程)42(40)%から「適切でないと思われる」とする回答がありましたので、それらの回答について次の3つの方針に基づいて検討を行いました。

- (1) 全国の作業療法士学校養成施設から寄せられた「国家試験として適切でないと思われる問題」のみを検討の対象とすること。
- (2) 当協会担当部署においてさらに検討を重ね、「国家試験として適切でないと思われる問題」に限定して意見を具申すること。
- (3) 国家試験問題の範囲や難易度についての意見を具申するものではないこと。

その結果、設問内容の適切さ及び出題形式（図や設問の説明）について下記の意見を述べさせていただきます。また、特に検討していただきたい二つの問題（午前1問題、午後1問題）につきましては、別紙に内容を記載し、併せて具体的な理由を付記いたしました。

ご検討の程よろしくお願い申し上げます。

謹 白

記

- I 複数の解が選択できると思われる1問題（午前70）について、複数の選択肢を正解とすることが望ましいと考える。また、提示された選択肢からは解を選択する判断ができないと思われる1問題（午後59）について、採点から除外することが望ましいと考える（別添資料1-1～1-2参照）。
- II その他の意見
用語や設問の表現が不適切であり選択肢の理解に戸惑う3問題（午前14・24、午後6）、消去法や優先順位等から解は選べるものの他の選択肢も該当する可能性がある3問題（午前46・53、午後26）があると考えます。

第 56 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 3 年 2 月 21 日実施)

午前 問題	問題番号 (70)
<p>70 筋の作用で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 内側翼突筋は両側が同時に作用すると下顎骨を前に突き出す。2. 咬筋は片側だけが作用すると下顎骨を同側に移動させる。3. オトガイ横筋は下唇を突き出し小さなくぼみを作る。4. 大頬骨筋は口角を引き上げる。5. 顴眉筋は眉毛を挙上する。 <p>解 1、4 (複数の解が選択できる)</p>	
<p>理由</p> <p>選択肢「2」、「3」、「5」は誤っている。 文献1～3によれば、選択肢「1」の内側翼突筋は「両側同時に働くと下顎が挙上、前方突出する」と記載されている。 選択肢「4」の大頬骨筋は文献3～4に「口角を引き上げ、外側へ引っばる働きがある」と明記されている。また、第43回国家試験の専門基礎問題40番に、「大頬骨筋—口角を外上方に引き上げる。」が正答になっている。</p> <p>したがって、選択肢「1」と「4」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 筋骨格系のキネシオロジー原著第1版, 医歯薬出版, P383, 20052. 前田健康: ネットター 頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス原著第3版, 医歯薬出版, P229, 20183. 津山直一: 新・徒手筋力検査法 原著第9版, 協同医書出版社, P302-309, 20154. 塩田浩平: グレイ解剖学 原著第2版, エルゼビア・ジャパン, P861-930, 2011	

第 56 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 3 年 2 月 21 日実施)

午後 問題	問題番号 (59)
<p>午後59 尿路について正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 膀胱の粘膜は扁平上皮である。2. 内尿道括約筋は横紋筋からなる。3. 尿管内部には逆流防止弁がある。4. 成人の膀胱の最大容量は約 1,200 mL である。5. 成人の初発尿意は膀胱容量 300～350 mL で生じる。	
<p>理由</p> <p>文献 1、2 より</p> <ol style="list-style-type: none">1. 膀胱の粘膜は扁平上皮ではなく、移行上皮であるため誤り。2. 内尿道括約筋は横紋筋ではなく、平滑筋であるため誤り。3. 尿管内部に逆流防止弁は存在しないため誤り。4. 成人の膀胱の最大容量は約 1,200 mL ではなく、800 mL であるため誤り。5. 成人の初発尿意は膀胱容量 300～350 mL ではなく、150～200 mL であるため誤り。 <p>解：提示された選択肢からは解を選択することができない。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 野村巖編集：解剖学. 第4版, (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院, 2015, p. 395.2. 河合康明, 他：標準生理学. 第9版, 医学書院, 2019, p. 779.	